

S E R I NEWS RELEASE

平成 25 年 5 月 29 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

第 38 回

「静岡県版 景気ウォッチャー」調査(平成 25 年4月)

～現状判断、先行き判断ともに 2 期連続で改善判断～

- 平成 25 年 4 月実施の「静岡県版 景気ウォッチャー」調査では、県内景気の「現状判断指数（方向性）」は 58.3 と、前回 1 月調査（50.5）比で+7.8 ポイント上昇し、景気横ばいを示す「50」を 2 期続けて上回る「改善」判断となった。
- また、2～3 カ月先の「先行き判断指数（方向性）」は 59.1 と、前回 1 月調査（56.6）比で+2.5 ポイント上昇しており、こちらも 2 期連続の「改善」判断となった。日銀の金融緩和策を受けて株価上昇が進み、高額商品やレジャー消費で動きが見え始め、住宅販売も増加傾向にあるなど、個人の消費マインドは浮揚しつつある。

担当：山本愛里

経済政策効果で景況感の改善基調が鮮明に

平成25年4月調査では、現状判断指数は58.3と、前回調査（50.5）から+7.8ポイント上昇した。2期連続で景気横ばいを示す「50」を超えたのは、リーマン・ショック前の平成19年4月期以来、6年ぶりである（図表1、2）。また、先行き判断指数も59.1と前回調査（56.6）から+2.5ポイント上昇しており、経済政策効果から景況感の改善基調が鮮明になってきている（図表1、3）。

現状判断指数が上昇した要因として、飲食店来客数の増加などから家計消費関連が前回比+8.0ポイント上昇したこと、商談が活発化している事業所向けビジネス関連が同+7.1ポイント上昇したことなどが挙げられる。また、先行き判断指数が上昇した要因として、景気浮揚感から広告受注や設備投資の増加を見込んで事業所向けビジネス関連が同+8.2ポイント上昇したことや、企業の業績改善から雇用情勢が上向くことへの期待を反映して雇用関連が同+2.5ポイント上昇したことが挙げられる。

調査の要領

- （1）調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的にしている。
- （2）調査対象：家計消費、事業所向けビジネス、雇用など、経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者。

分 野	ウォッチャーの代表的な業種
家計消費関連（n = 79）	
小売関連（n = 30）	百貨店、スーパー、乗用車販売、書籍販売 など
飲食関連（n = 11）	飲食店、割烹、外食チェーン など
サービス関連（n = 28）	観光ホテル、旅行代理店、カルチャーセンター など
住宅関連（n = 10）	不動産販売、住宅販売、住宅展示場 など
事業所向けビジネス関連（n = 18）	印刷、広告代理店、運輸、司法書士、情報サービス など
雇用関連（n = 10）	人材派遣、職業紹介、求人情報誌 など

- （3）調査方法：各企業の担当者に対するアンケート調査
- （4）調査事項：①現在の景気の水準について
②景気の現状に対する判断（3カ月前との比較）
③その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など（自由回答）
④景気の先行きに対する判断（2～3カ月先の予想）
- （5）調査時点：平成25年4月下旬
- （6）回答状況：調査対象110名のうち、有効回答を寄せていただいた方は107名で、有効回答率は97.3%である。

* 景気判断指数とは、景気の現状や先行きに対する判断を点数化（下表）し、それらに各判断の構成比（%）を乗じて指数（D.I.）化したものである。これにより、判断指数（方向性）においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

評価	現在の景気 （水準判断）	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い
現状判断		良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
先行き判断		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
点 数		+1	+0.75	+0.5	+0.25	0